

令和4年7月1日

通知表に想うこと

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

新規採用教員としての1学期末、通知表の作成時期になり、私はとても憂鬱になっていました。何かと目をかけてくださっていた先輩教師が、晩ご飯を御自宅に誘ってくださいました。その際、思い切って先輩に尋ねました。

「先生は通知表の所見欄を記入するのが辛くありませんか。私はとても辛いのです。私の指導力のなさで悪い成績をもらう子どもがいます。」

酔いが回り始め、その先輩は次のように話されました。

「石川さん、今の気持ちを忘るんな。成績の悪かった子が、良くなるにはどうしたらよいかね。見取り方やその手立てはどうするね。指導していることがあれば、それをそのまま保護者に伝えればよか。協力を求めんね。逆に成績の良かった子供には、その子のがんばりをそのまま伝えればよか。更に伸ばしてと。自分の言葉で具体的に伝えてあげんね。それが通知表の一番のねらいじゃが。まあ飲め。」

34年も前の話ですが、今でもその先輩の話思い出します。

令和4年7月4日

汝自身を知ろう

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

本当の自分のことさえよく分からないのに、他者を理解することなど不可能なことなのかもしれません。だからこそ、知る術を知り、知る努力が必要なのだと思います。

先哲は「汝自身を知れ」と説きました。自分自身を知ることの難しさを痛感していたのでしょう。客観的に自分自身を知るには、他者からの評価も大切だと思います。自分勝手な解釈では傲慢になるからです。他者や周囲からどのように見られているのか、思われているのか。また、「人は長所で尊敬され、短所で愛される」と言われますが、自分の長所、短所は何か、自分のことをより客観的に、より深く考えていきたいものです。

他者の意見は、まずは素直に聴き、内省、熟慮、判断し、行為に移していきたいものです。他者へのいたわりの気持ちを忘れずに、心穏やかに、寛容性を大切に、笑顔を絶やさず、周囲に感謝しながら生きていきたいと思います。最近の世界情勢からそんなことを考えました。

令和4年7月6日

短冊に願いを込めて天の川

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

7月5日の七夕集会で、子どもたちは七夕飾りや短冊を作成しました。短冊を見てみると、「ソフトボール少年団が全国大会でベスト8に入れますように」「高校の地理の先生になれますように」「ピアノの発表会でうまく弾けますように」等々、現在、頑張っていることへの願いが書かれていました。なかには「大きなケガをしない」と書かれた短冊もありました。思わず「その通り。」と、口に出してしまいました。

令和を生き、令和の社会を創る担い手となる子どもたちです。それぞれの夢や願いに向かって、今後も努力を続けてほしいと思います。日々の努力や頑張りが、きっと未来に通じると信じています。人生は日々の積み重ねであり、振り返った時に過去は思い出として輝くはずです。

本年度末に浮辺小学校は閉校を迎えますが、学校生活を悔いなく楽しく過ごし、よき思い出をたくさん作ってほしいと思います。「みんなの願い事が叶いますように」と短冊にしたためておきました。

令和4年7月8日

豊かな表現力の育成を目指して

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

私は南日本新聞社の子供のうた、若い目欄を読むことを日課にしています。子どもたちの清らかな瑞々しい感性に感動し、清々しい気持ちで一日のスタートを切っています。

本県教員に採用されて以来、担任する子供の作品や学校行事等を投稿してきました。掲載されると反響も大きく、その子供、学校の励みや自信にもつながります。また、保護者や地域の方々からの称賛や喜びの声が届くと、更に意欲が高まり、表現力の向上に資すると思います。

本校では、豊かな表現力の育成を研究テーマに掲げ、日々の教育活動を展開しています。新聞投稿もその一環で取り組んでいます。掲載されることが目的ではなく、日々感じたことや思ったことを目的意識や相手意識を持って、感性豊かに文章で表現できる子供に育ってほしいと思います。

本年度末に本校は閉校しますが、結果として全児童11名全員が掲載されることを楽しみに、これからも取組を継続していきます。

令和4年7月13日

素直さこそ成長の鍵

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

閉校記念水泳学習発表会を行いました。全児童11名の子どもたちが、それぞれの目標を定め、目標達成に向けた練習をこれまでの授業で取り組んできました。その成果を全員、見事に発表しました。

特に4年生1名、6年生3名の子どもたちは、放課後の週2回程度、担任の先生と一緒に強化練習に取り組んできました。私も役不足ですが練習に加わり、ポイントとなる身体の姿勢、手の掻き方や足のけり方、息継ぎの仕方等を中心に指導しました。

子どもたちが指導を素直に受け止め、食欲に吸収する姿に感心するとともに大きな喜びを感じました。言われたことを言われたとおりに体現できる子どもたちの能力の高さにも驚きました。継続して努力することの大切さも、改めて子どもたちの泳ぐ姿から教えられました。

「素直さこそ成長の鍵です。」と、担任をしていた頃、子どもたちによく語っていた当時に懐かしく思い出しました。そして、子どもたち

令和4年7月19日

充実した夏休みに

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

今年の夏休みも新型コロナウイルス感染症に注意を払う休みになりそうです。それでも、家族と過ごした夏休みの思い出は貴重な人生の財産になるはずです。旅行やイベント等、特別なことではなくても、家庭での手伝いやふれあい、何気ない親子の会話を大切にしてほしいと思います。

子供が感じる時間の長さや大人のそれとは違いがあるそうです。時間を体感する長さが大人と子供では異なるというのです。子供は様々なものに興味を示し、不思議に思い、疑問に感じ、いろいろと考える時間が大人よりも長いので、時間の過ぎ去る感覚が大人より遅く感じられるとのこと。

夏休みはお子様がお家で過ごす時間が長くなります。早く学校が始まればいいのと思う保護者の方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、子供の興味・関心、疑問と向き合い、保護者にとっても短いと感じられる休みになればいいなと思います。楽しい時はあっという間に過ぎ去ってしまうのですから。

令和4年7月22日

有意義な夏休みに

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

夏休みに入りました。毎年、休み中の交通事故や水難事故、不審者等について心配をしますが、近年は新型コロナウイルス感染症、猛暑による熱中症も心配事となりました。御家庭でもしっかりと対処され、安心・安全な日々を過ごしてほしいと思います。

私にも小学生時代がありました。この歳になっても当時の夏休みのことを鮮明に思い出します。サッカー少年団の練習や水泳記録会に向けての練習、夏草が文字通り燃えるような香りを放っていたこと等、どれも懐かしい思い出です。特に家族と過ごした日々は忘れられません。旅行やイベントといった特別なことではなく、家庭での手伝いやふれあい、何気ない会話が思い出に残っています。皆さんも家族での共通体験を通して、心に残る日々を一日でも長く送ってほしいと思います。

人生は思い出でできています。その人が持っている、持っていた時間がその人の人生です。よき思い出に囲まれ、豊かな人生を送りたいものです。